

Institut national des langues et civilisations orientales
LLCE de japonais – Troisième année
L3 S5

VERSION
(JAPA320c)
Textes et vocabulaire

Année 2020-2021

Nathan Béridot
Jérémy Corral
Guibourg Delamotte
Benjamin Giroux
Nicolas Pinet

Un outil de référence : *Les Consignes générales au traducteur* (brochure disponible sur Moodle)

Livres dont vous aurez besoin pour mener à bien votre travail :

- Un dictionnaire de langue française
- Le Bescherelle
- *Le Bon Usage de la langue française*
- Un dictionnaire unilingue japonais (par exemple le *Kokugojiten* 国語辞典 des éditions Iwanami, le *Meikyôkokugojiten* des éditions Taishûkan ou le *Kôjien*).
- Un dictionnaire bilingue japonais-français (par exemple le *Dictionnaire Standard japonais-français* des éditions Taishûkan).

Quelques liens vers des dictionnaires divers :

<http://www.wordreference.com/>
<http://www.edrdg.org/cgi-bin/wwwjdic/wwwjdic?1C>
<http://www.crisco.unicaen.fr/des/>
<http://www.cnrtl.fr/>
<http://gogen-allguide.com/>
<http://www.kanjijiten.net/index.html>
<http://jisho.org/>
<https://kotobank.jp>

Pour en savoir plus sur le métier de traducteur :

La tentation de la France, la tentation du Japon, sous la direction de Michael Ferrier, éditions Picquier, 2003, et plus particulièrement : « Les coulisses de la traduction », p. 193-232.

Vous trouverez aussi d'autres informations et liens utiles sur Moodle.

RÉGIME D'EXAMEN ET MODE DE CONTRÔLE

CONTRÔLE CONTINU

- Les étudiants doivent être inscrits pédagogiquement dans l'un des groupes. Ils ne peuvent assister qu'aux cours du groupe auquel ils sont inscrits.
- 11 textes sont proposés, sur des sujets variés. Le premier texte est traduit par les étudiants pendant la première séance, et corrigé lors de la deuxième séance. Dès cette deuxième séance, les étudiants rendent chaque semaine la traduction du texte suivant. Le cours consiste en la correction collective du texte après le travail individuel.
- Pour bénéficier du contrôle continu, les étudiants doivent rendre un minimum de 7 textes. Ces traductions seront évaluées. Le travail des étudiants sera aussi apprécié en fonction de leur assiduité, de leur régularité et de leur progression. La note de contrôle continu consistera en points (2 maximum) ajoutés à la note d'examen.
- Chaque semaine, les enseignants proposeront sur Moodle un corrigé du texte traduit.
- L'examen de la session de janvier sera une version sur un texte inconnu.

RÉGIME FINAL

Les étudiants se verront proposer une version sur un texte inconnu (le même que celui de contrôle continu) à la session de janvier.

SECONDE SESSION D'EXAMEN

Les étudiants se verront proposer une version sur un texte inconnu à la session de rattrapage. Les notes de contrôle continu ne seront alors plus prises en compte.

Attention : les dictionnaires papier et électronique sont autorisés lors des épreuves d'examen. Par contre, le recours à internet est interdit.

CALENDRIER

- Texte 1 : travaillé en cours lors de la première séance (semaine du 21 septembre)
- Texte 2 : à rendre dans la semaine du 28 septembre
- Texte 3 : à rendre dans la semaine du 5 octobre
- Texte 4 : à rendre dans la semaine du 12 octobre
- Texte 5 : à rendre dans la semaine du 19 octobre
(interruption des cours pour la Toussaint)
- Texte 6 : à rendre dans la semaine du 2 novembre
- Texte 7 : à rendre dans la semaine du 9 novembre
- Texte 8 : à rendre dans la semaine du 16 novembre
- Texte 9 : à rendre dans la semaine du 23 novembre
- Texte 10 : à rendre dans la semaine du 30 novembre
- Texte 11 : à rendre dans la semaine du 7 décembre

Vocabulaire du texte 1

→ Dans votre traduction, adaptez les mots de vocabulaire donnés au contexte de la phrase.

首筋	くびすじ	nuque
水滴	すいてき	goutte
落ちた	おちた	tomber
瞬く間に	またたくまに	aussitôt, en un rien de temps
変わった	かわった	transformer, changer
踏む	ふむ	appuyer, pousser
込めた	こめた	contenir
距離	きより	distance
時刻	じこく	heure
夢	ゆめ	rêve
終えた	おえた	terminer
応接間	おうせつま	petit salon
豪華な	ごうかな	confortable
腰	こし	hanches, reins
済めば	すめば	arrêter
厄介な	やっかいな	problématique
発表会	はっぴようかい	audition
弾く	ひく	jouer
曲	きょく	morceau
変更する	へんこうする	changer
嫌いな	きらいな	détestée
判明	はんめい	explication, clarification

Source :

東野圭吾『ダイイング・アイ』光文社文庫、2011年。

Texte 1

プロローグ

首筋に小さな水滴が一つ落ちたと思ったら、瞬く間に小雨に変わった。

岸中美菜絵（きしなかみなえ）は自転車のペダルを踏む足に力を込めた。自宅までは、まだ少し距離があった。一キロ強といったところか。

時刻は午前三時近くになっていた。まさか、こんな時間になってしまうとは、出かける時には夢にも思わなかった。

深見（ふかみ）家でのピアノのレッスンを終えたのは、いつものように十時ちょうどだった。だがその後、深見夫人にお茶の相手をさせられ、十一時近くまで応接間にある豪華なソファに腰を下ろしていた。それで済めばよかったのだが、いざ帰ろうとした時に、教え子である一人娘が突然厄介なことをいいだした。今度の発表会で弾く曲を変更したいというのだ。嫌いな相手が同じ曲を弾くと判明したかららしい。

Vocabulaire du texte 2

→ Traduire jusqu'à « 何か上手くいかない ».

床屋	とこや
髪	かみ
伸びる	のびる
放る	ほうる
散髪屋	さんぱつや
美容院	びよういん
苦手	にがて
細かい	こまかい
積み重なる	つみかさなる
図式	ずしき
鏡	かがみ
真正面	ましょうめん
向かい合う	むかいあう
眺める	ながめる
堂々	どうどう
妙	みょう
照れる	てれる
馬鹿	ばか
情けない	なさけない
陥る	おちいる
誓う	ちかう

Source :

原田 宗典 『東京困惑日記』 (角川書店、1991 年)、18-19 頁。

Texte 2

床屋をめぐる困惑

髪が長くなってきたにつれ、ぼくは憂鬱ゆううつになる。別に髪の長さがうつつとうしくて、そういう気分になるわけではない。理由は他にある。

髪が伸びてくれば、そのまま放っておくわけにもいかない。床屋もしくは散髪屋あるいは美容院なる場所へ行つて、髪を切らなければならぬ。これが苦手なのである。イヤなのである。

なぜ床屋が嫌いなのか。

これは一言では説明できない。様々な細かい「やや苦手」が積み重なって、「かなり苦手」になり、その「かなり苦手」がさらに積み重なって「スゲエ苦手」になる、という図式なのである。

例えば、鏡。床屋へ行くと必ず鏡と真正面に向かい合い、自分の顔と対峙たいじするハメになる。あの鏡が、まず苦手なのである。床屋というのは髪を切られている間、何もすることがない。雑誌でも持って座らない限りは、どうしても正面の鏡を眺めることになる。当然そこには自分の顔が映っている。てめえのツラなんだから堂々と見りゃいいじゃねえか、というご意見もあるが、なかなかそういうわけにはいかない。鏡の中の自分と目が合つて、妙に照れてしまったりする。馬鹿みたいである。そこで生真面目まじめな表情をつくらうとするのだが、何だか上手うまくないかない。

「うーむ。俺の真面目な顔って、こんなヘンな顔だったのか」

と再認識をして、ひどく情けない気分になる。もう二度と人前で真面目な顔をするのはやめよう、ぜひやめよう、と心に誓つたりする。馬鹿みたいである。

Vocabulaire du texte 3

→ Traduire jusqu'à « 世界的には多いとされているよ » (début du quatrième bloc de texte). La traduction du tableau est facultative.

天皇	てんのう
祝日	しゅくじつ
令和	れいわ
即位	そくい
天皇陛下	てんのうへいか
成立	せいりつ
退位	たいい
実現	じつげん
特例法	とくれいほう
改正	かいせい
上皇さま	じょうこうさま
在位中	ざいいちゅう

Source :

『いちからわかる。(祝日法で決められている。)改正すれば祝日を増やせるよ』

Asahi, 22 février 2020.

Texte 3

いちから
わかる!



今年から2月23日が 新しい天皇誕生日だね

祝日法で決められている。改正すれば祝日を増やせるよ

コブク郎 今年から2月23日が祝日になったね。

A 令和が始まった昨年5月に即位した天皇陛下の誕生日だからね。2017年6月に成立した「退位を実現する特例法」に含まれ

る形で祝日法も改正され、今年から新しく祝日に加わったんだ。代わりに退位した上皇さまの誕生日の12月23日は、昨年から平日になったよ。

コ 「昭和の日」は祝日

祝日法で規定。改正すれば変更できる



ご即位祝賀行事に臨む天皇、皇后両陛下 =19年5月1日

祝日はどうやって決まるの? →

◆2月23日が新たに祝日になったのは…

2017年6月 「退位を実現する特例法」の成立で祝日法も改正

19年5月 天皇陛下が即位し、元号は令和へ

◆天皇誕生日も変更

天皇陛下の誕生日 (2月23日) 今年から祝日に

上皇さまの誕生日 (12月23日) 昨年から平日に変更

◆歴代天皇の誕生日は…

明治天皇(11月3日) 文化の日として祝日

大正天皇(8月31日) 平日

昭和天皇(4月29日) 昭和の日として祝日

けど、「平成の日」として祝日にならないの?

A 昭和天皇の誕生日の4月29日は、1989年に昭和天皇が亡くなった後に「みどりの日」になり、祝日法改正で07年から「昭和の日」に変わったんだ。みどりの日は5月4日に移ったよ。今回は上皇さまが在位中であることなどから祝日にはなっていないんだ。

コ 歴代の上皇誕生日は祝日になっていないの?

A 明治天皇の誕生日は「文化の日」(11月3日)として残っているけど、大正天皇の誕生日(8月31日)は祝日になっていない。祝日にすることが、法律で特に定められているわけではないんだ。

コ そもそも祝日は法律で決まっているの?

A すべて祝日法で決められていて、年に16日ある。世界的には多いとされているよ。今年の特例として、東京五輪・パラリンピックの準備や運営をスムーズに進めるため、「海の日」(7月の第3月曜日)を7月23日、「スポーツの日」(昨年まで体育の日、10月の第2月曜日)を7月24日、「山の日」(8月11日)を8月10日に変更し、土日と合わせて連休になるようにしているんだ。

コ 今後も増えるかな。

A 法改正をすれば増やせるよ。最近では16年から山の日が追加されたね。ただ、国民が一斉に休みを増やすばかりではなく、それぞれの都合に応じて休みを取りやすい社会にする必要もあるね。(西村圭史)

→ Traduire jusqu'à « 住みづらくなっている ».

輝き	かがやき
抽選	ちゅうせん
一挙に	いっきよに
組織	そしき
高層	こうそう
住棟群	じゅうとうぐん
変貌	へんぼう
退去	たいきよ
廃墟	はいきよ
高齢化	こうれいか
輝く	かがやく
忘却	ぼうきやく
叫ぶ	さけぶ

Source :

Hara, Takeshi [原武史] et Kiyoshi Shigematsu [重松清], *Danchi no jidai* [団地の時代 ; L'Ère des danchi], Tokyo, Shinchōsha [新潮社], « Shinchō sensho » [新潮選書 ; Livres choisis de Shinchō], 2010, p. 12-13.

Texte 4

おそろく、いま七十歳以上になっている団地住民は、ほとんどがもう三十年ないし四十年、もしくはそれ以上にわたり、同じ団地に住んできたのではなからうか。彼らが初めて団地に住み始めたころ、団地という言葉には、今日からは想像もつかないような輝きがあった。団地の人気はきわめて高く、三十回続けて抽選に落ちる人も珍しくなかった。

もともとその土地に何の縁もゆかりもない二、三十代の夫婦が一挙に入居し、子供を次々に産んでいった結果、団地の人口は増え続けた。自治会ができ、政治的関心や文化的関心に支えられた居住地組織やサークルができ、一つの完結したコミュニティが団地に生まれた。

しかしいまでは、古くなった団地は次々と建て替えられ、「団地」の代わりに「サンヴァリエ」「グリーンタウン」「アートヒル」「サンラフレ」といった片仮名が付いた、民間マンションと見間違えそうなエレベーター付きの高層住棟群に変貌している。建て替えを前にした団地は、住民が退去し、立ち入りが禁止されて廃墟のようになり、建て替えられていない団地でも、階段が多い高層階ほど老人にとっては住みづらくなっている。

団地で生まれた子供たちが成長して出てゆき、残された親である住民が高齢化するとともに、団地が輝いていた時代は忘却されつつある。団地の歴史をずっと見つめてきたはずの住民自身ですら、そうした時代があったことを語ろうとしなくなっている。だが、戦争体験の風化に対する危機感がしばしば叫ばれるのに対して、団地体験の風化という言葉は聞いたことがない。

Vocabulaire du texte 5

→ Traduire jusqu'à « そうでなかったりするのです。 » (fin du deuxième paragraphe).

一般	いっばん
騒音	そうおん
総称	そうしょう
種別	しゅべつ
邪魔	じゃま
販売	はんばい
蚊	か
刺激	しげき

Source :

『音響設計学入門 音・音楽・テクノロジー』、九州芸術工科大学音響設計学科編、福岡、九州大学出版会、2000、11頁。

Texte 5

社会生活と音

我々は独立した形で生活しているのではなく、社会の一員として生活しています。その社会には自分が発生する音だけではなく、自分以外の人やものが発生する音もあります。それらの中には聞きたい音、聞きたくない音、そして何も注意を払わない音があります。そしてこれらの音は好むと好まざるとにかかわらず耳に達し、聞こえることとなります。聞きたい音ばかりなら問題はないのですが、一般に聞きたくない音が社会では多すぎるために“騒音”問題が生じるのです。

この“騒音”とは個人が聞きたくないと思う音の総称です。音の種別、音の大きさ、音の高低、等々に関係なく、とにかく聞きたくない音であれば騒音となります。ある人にとって好きな音楽でも、その人が眠いときやその人の仕事の邪魔になれば、それはもはや騒音なのです。一般に騒音としてとらえられている自動車のエンジン音でも、好んで聴く人がいてレコードに録音され販売されることもあるのです。また録音するにも一苦労するような小さな蚊の羽音も、暑苦しい熱帯夜で、寝苦しいときには非常にうるさい騒音となりうるのです。要するに物理刺激としての音と我々の心理状況、生理状況により、同じ音でも騒音になったり、そうでなかったりするのです。

また音によっては騒音になりやすい音とそうでない音もあります。前者は大きな音、周波数の高い音、音色の不快感、変動の大きな音、衝撃性の音、静かなところで発生する音などです。これらに含まれるもので公害等で問題になっている音は、自動車騒音、鉄道騒音、航空機騒音、工場騒音などです。また近隣騒音と呼ばれるもので、我々の私生活の中から生まれる騒音もあります。ペット犬の鳴き声、音楽練習音、クーラー外機音、自動車アイドリング音、ボイラー燃焼音、等々日常生活で生じてしまう音も騒音となりやすいものです。

では、社会において、音に関して人に迷惑をかけないためにはどのようにすべきなのでしょう。またどのように規制すべきなのでしょう。

→ Traduire jusqu'à « 枯らしたのである ».

僕	ぼく
趣味	しゅみ
畑作り	はたけづくり
文学賞	ぶんがくしょう
苗	なえ
脳裏	のうり
輝く	かがやく
素敵な	すてきな
奪う	うばう
駆逐する	くちくする
絞める	しめる
枯らす	からす
養分	ようぶん
吸い尽くす	すいつくす
枝豆	えだまめ
枯死する	こしする
熾烈に	しれつに
紅蓮	ぐれん
短編集	たんぺんしゅう
口福	こうふく
冲方丁著	うぶかたとうちよ

Source :

短編集『作家の口福』、「大根 大戦争を生き残った平和主義者」冲方丁著、朝日新聞出版、朝日文庫、2016年、49頁。

Texte 6

食といえは僕は無類の肉好きだが、野菜にだって思い出がある。その筆頭は大根だ。僕にとって大根は平和主義の代名詞である。

震災以前の僕の最大の趣味は、畑作りだった。文学賞のお祝いに母からツツジを贈られ、自分で庭に植えたのがきっかけだ。

土いじりが楽しく、調子に乗って色々な苗を買ってきては広くもない畑スペースに植えていった。

脳裏にあったのは、絵本のような世界である。花々や野菜たちが所狭しと並んで輝く、素敵な宝箱の中身のごとき光景を期待した。

結果は、見るも恐ろしい大戦争であった。植物も争うことを僕は初めて知った。己の領地を広げるため、他の植物が苦手とする化学物質を放ったり、ツタを絡ませるで倒し、日光を奪ったりするのだ。

まずサツマイモが、スイカに駆逐された。恐るべき勢いでツタが葉を絞め、枯らしたのである。

ブドウの木がレモンの木に絡みついた。ミントがカモミールをなぎ倒した。トマトが養分を吸い尽くして枝豆を枯死させ、ペロンチーノと熾烈しれつに争った。紅蓮ぐれんの実をつける両者の間で、ベゴニアと茄子なすとチューリップが倒れた。

Vocabulaire du texte 7

→ Traduire jusqu'à : « 誤っていたのだと出張できる ».

竹下登	たけした のぼる (nom propre)
阿部晋三	あべ しんぞう (nom propre)
総数	そうすう
東久邇宮稔彦	ひがしくにのみやなるひこ (nom propre)
端的	たんてき
混乱	こんらん
混迷	こんめい
迷走	めいそう
懐かしむ	なつかしむ
志向	しこう
高齢	こうれい
評論家	ひょうろんか
中選挙区制	ちゅうせんきょくせい
復活	ふっかつ
繰り返す	くりかえす
賞賛	しょうさん
急激	きゅうげき
先進国	せんしんこく
悩み	なやみ
押し寄せる	おしよせる
予測	よそく
苦境	くきょう
誤る	あやまる

Source :

小熊 英二 (編集) 『平成史』 (河出書房新社、2014年)、100頁。

Texte 7

1 本章の目的と構成——平成の政治を如何に捉えるか

われわれは、平成に入ってから四半世紀の間に覚えきれない数の首相をリーダーとして迎えている。竹下登から安倍晋三まで一七人という平成期二五年間の首相の総数は、東久邇宮稔彦から竹下登という戦後昭和期の四三年半に就任した首相の人数と同数である。

このデータが端的に示すように、平成期の政治は不安定な状況が続き、混乱、混迷、迷走といった言葉で表現されることが多い。これに比較すると、五五年体制と呼ばれた昭和後期の政治は非常に安定していたように見える。このため、昭和の政治を懐かしみ、五五年体制への回帰を志向する言説もしばしば見かける。高齢議員や政治評論家などが、前時代の政治家を美化し、中選挙区制復活論のような主張を繰り返しているのがその最たる例だろう。

しかし、こうした言説に聞くべきところがあるにしても、いたずらに昭和と平成の政治を比較し、前時代を賞賛し、回帰を目指すのは意味のある議論ではない。戦後、急激な経済成長を果たした分、成長後の先進国の悩みが今になって押し寄せているというのが現在の状況である。将来の問題を予測して適切に対応しなかったために、現在の日本の苦境があると考えれば、むしろ昭和の政治こそ道を誤っていたのだと主張できる。

ただそうは言っても、現在の政治により損失を被るのは現代に生きる我々であり、将来の世代である。何か間違いがあるなら早いうちに修正し、将来に損失を拡大させないよう、知恵を働かせることが求められる。本章は、そうした目的に資するよう、平成の政治について整理し、

Vocabulaire du texte 8

→ Tout traduire, biographie incluse.

勤務	きんむ
衆院	しゅういん
参画	さんかく
比率	ひりつ
参院	さんいん
列国議会連盟	れっこくぎかいれんめい
調査	ちょうさ
民間研究機関	みんかんけんきゅうきかん
世界経済	せかいけいざい
男女平等度	だんじょびょうどうど
政治家	せいじか
施行	しこう
政治分野	せいじぶんや
男女共同参画推進法	だんじょきょうどうさんかくすいしんほう
選挙	せんきょ
候補者数	こうほしゃすう
均等	しんどう
強制力	きょうせいりょく
実効性	じっこうせい

Source :

『衆院の女性 9.9%止まり』 Ôyama Reiko 大山礼子, Yomiuri, 22 février 2020.

大山礼子氏 駒沢大教授



1979年、一橋大大学院修士課程修了。国立国会図書館勤務、聖学院大教授を経て、2003年から現職。専門は政治制度論。著書に「日本の国会」（岩波新書）など。65歳。

衆院の女性 9.9% 止まり

国会で女性議員の参画は進んでいない。現在、衆院の女性議員の比率は9.9%、参院も22.9%にとどまる。

ないため、153か国中121位と低位にとどまっている。

各国議会で作る列国議会同盟（IPU）の調査によると、日本の女性議員の割合は193か国の中で165位と低い。スイスの民間研究機関「世界経済フォーラム」の2019年版の男女平等度ランキングでも、女性政治家が少

18年5月に施行された「政治分野における男女共同参画推進法」は、国会や地方議会の選挙で、男女の候補者数ができる限り均等になることを目指し、政党などに取り組みを求めている。ただ、強制力はなく、現時点では実効性は不透明だ。

Vocabulaire du texte 9

振り返る	ふりかえる
遙か	はるか
故郷	こきょう
黄昏	たそがれ
染まる	そまる
夢	ゆめ

Source :

Misora Hibari [美空ひばり], « Kawa no nagare no yō ni [川の流れるように] », *Kawa no nagare no yō ni: fushichō pāto II* [川の流れるように～不死鳥パート II], Tokyo, Nippon Columbia [日本コロムビア], 1989.

→ Écouter la chanson :

<https://communs.net/vid/kawa-no-nagare-no-you-ni.flac> (24 bits, 96kHz, 115 Mo)

<https://communs.net/vid/kawa-no-nagare-no-you-ni.mp3> (256 kbps, 8 Mo)

Texte 9

美空ひばり一川の流れるように

知らず知らず歩いて来た
細く長いこの道
振り返れば遥か遠く

故郷が見える
でこぼこ道や曲がりくねった道
地図さえないそれもまた人生
ああ川の流れるように
ゆるやかにいくつも時代は過ぎて
ああ川の流れるように
とめどなく空が黄昏に染まるだけ

生きることは旅すること
終わりのないこの道
愛する人そばに連れて
夢探しながら
雨に降られてぬかるんだ道でも
いつかはまた晴れる日が来るから
ああ川の流れるように
おだやかにこの身をまかせていたい

ああ川の流れるように

移りゆく季節雪どけを待ちながら

ああ川の流れるように
おだやかにこの身をまかせていたい
ああ川の流れるように
いつまでも青いせせらぎを聞きながら

→ Traduire jusqu'à « 僕は嘘を書く ».

僕	ぼく
誰	だれ
プルースト	Proust (Marcel)
ジョイス	Joyce (James)
ブランショ	Blanchot (Maurice)
一人称	いちにんしょう
只	ただ
殆ど	ほとんど
奇	き
鬪い	たたかい
愚かな	おろかな
嘘	うそ
不可避的	ふかひてき
誓う	ちかう

Source :

大里俊晴、『ガセネタの荒野』、東京、有限会社月曜者、2011、3 頁。

Texte 10

ここで僕が書こうとしているのは、ある時期からある時期までの僕らの記録だ。これは小説なんかではない。小説なんかそくらえだ。誰が今時小説なんて代物を書くことが出来る？ プルーストの後に？ ジョイスの後に？ ブランシヨの後に？ 以下略。だから、これは一人称で書かれた只の記録だ。殆ど何物でもないものについての記録。大した事は書かれていない。事実が小説より奇であった試しはない。お望みなら、これをある闘いの敗北の記録と言ってもいい。けれど、ここにはドラマもなければ、クライマックスもカタルシスもない。いや、正確に言えば、それは記録ですらない。言うも愚かな事だが、書くことは事実を写し取る手段ではない。もし嘘という言葉を使うのであれば、書くこと自体が、不可避免的に嘘をつくことだ。僕は事実しか書かない。これは誓う。それしか書く気がないし、それしか書く能力が無い。だけどそいつは嘘だ。僕は嘘を書く。

それは大して昔の事じゃない。でも十年一昔というなら、一昔半程前から話は始まる。

→ Traduire jusqu'à : « 自分の気分に合わせていると思った。 »

蜂須賀	はちすか (人名)
宇田川	うだがわ (人名)
前橋	まえばし (地名)
鬱屈する	うっくつする
厚い	あつい
覆う	おおう
蒸す	むす
利根川	とねがわ
空腹	くうふく
赤堀	あかほり (地名)
旨い	うまい
暖簾	のれん
駐車場	ちゅうしゃじょう
溢れんばかり	あふれんばかり
高崎	たかさき (地名)
桐生	きりゅう (地名)
詰まる	つまる
幹線道路	かんせんどうろ
薄情	はくじょう
絲山秋子著	いとやまあきこちよ
河出書房新社	かわでしよぼうしんしゃ
河出文庫	かわでぶんこ

Source :

『薄情』 絲山秋子著、河出書房新社、河出文庫、2018年、246頁。

Texte 11

蜂須賀を送ったあと、そのまま家に帰る気にはならなかった。宇田川は国道17号に出て、前橋方面へと向かった。気が済むまで車を走らせるつもりだった。わだかまりがあるわけでも、鬱屈しているわけでもなかったが、自分の心のバランスが整っていない感じがしていた。

空は厚い雲で覆われていて、蒸した空気が重たかった。

かれは走り続けた。利根川を渡って前橋市街を過ぎたあたりで空腹を感じた。赤堀の先のちよつと入ったところにかき揚げうどんの旨い店があるのを思い出した。暖簾のれんが出ていなければ物置みたいな店だが、昼休みの時間帯なら狭い駐車場に営業車やトラックが溢れんばかりに停まっている。

うどんを食べて空腹を満たしたかれは高崎に引き返すか、それとも先へ進むか少し迷って、結局また50号を桐生方面へと進んだ。ところどころで流れが詰まったが、幹線道路の単調さが自分の気分に合わせていると思った。カーブの楽しさを味わう気

